

第1学年 生活科 学習指導案

橋本市立高野口小学校

教諭 増尾 るあ

1. 単元名 「しあわせの四つ葉探検隊！～高野口で好きを見つけよう～」

2. 単元の目標

- ・身近な自然や地域の中にある草花や生き物に関心をもち、その様子や季節による変化、くらしとの関わりに気づくことができる。 (知識・技能)
- ・自然と触れ合う中で感じたことや気づいたことを友達と伝え合い、自分が暮らす地域の中で「好きなこと」「素敵だと思うところ」を見つけ、自分なりに表現することができる。 (思考・判断・表現)
- ・自然や地域での活動に進んで取り組み、高野口町の自然や環境を大切にしようとする気持ちをもつことができる。 (主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元では、「四つ葉のクローバーを探す活動」「地域の自然とのふれあい」「自分の好きな地域の場所を発表する活動」を教材として取り上げる。学校のまわりや地域の公園、山などに出かけて自然とふれ合う体験を通して、身近な自然の中にある草花や生き物の姿や変化に気づかせることができる。また、自然の中で見つけた四つ葉のクローバーをきっかけとして、自然の不思議さや美しさ、命の尊さを感じ取る視点を育むことができる。さらに、地域にある自然や風景、季節の移ろいなどに目を向けさせることで、地域の豊かさや魅力に気づかせることができる。友達との交流や表現活動を通して、自分たちが暮らす地域の中に“しあわせ”を見出すことが期待したい。

(2) 児童観

本学級の児童は、登校時に四つ葉のクローバーを持ってくる児童の行動をきっかけに、学級目標を「しあわせ」とし、自然や地域に目を向ける活動に関心を高めている。現在は、四つ葉探しを楽しむ児童が増え、友達と一緒に探したいという声が広がっている。子どもたちは、自然の中で感じたことを共有しながら、「みんながしあわせになるためには」という問いをもとに考えを深めようとしている。これから地域の自然や場所に出かけ、自分の好きな場所を見つけたいという意欲をもっている。この単元は、子どもたちが自然や地域に親しみをもち、愛着を育むとともに、持続可能な社会づくりの基礎となる力を育てる意義が大きい。

(3) 指導観

本単元では、子どもたちが身近な自然や地域に親しみをもち、そこにある“しあわせ”を自分なりに見つけることを目指す。まずは学校周辺で四つ葉探しや草花・虫取りを行い、自然の不思議さや命の尊さに気づく体験を積ませる。発見したことを絵日記などで記録し、友達と共有することで、協力しながら学ぶ楽しさを味わえるようにする。

次に、地域の山や神社、公園などに出かけ、季節や風景の変化に触れ、感じたことをカー

ドにまとめる活動を行う。地域の自然や文化に親しむことで、自分の住む場所の魅力を発見し、愛着をもつことを大切にする。行きたい場所や見たいものを子どもたち自身が話し合い、活動の方法や記録の仕方を決める場を設けることで、主体的な学びを促す。地域の人に質問したり案内したりしてもらいなど、社会とのつながりを実感できる体験も取り入れる。

さらに、学んだことや感じたことを絵やタブレット、工作などで表現し、ポスターやマップにまとめる。2月に行われるESD発表会で、自分の思いを言葉や作品で伝えることで、学びを深める。この活動では、まとめることで自分の思いを明確にし、他者と伝え合うことで新しい発見や違ったよさに気づくことを大切にする。また、発表を通して、保護者や地域の方にも高野口の魅力を知ってもらい、地域への愛着を広げる機会とする。この活動により、地域のよさを共有し、未来につなげる意義を実感できるようにする。

最後に、活動を振り返り、地域や自然との関わりを通して得た気づきを整理する。そのうえで、2年生になったときに「さらに高野口のよさを見つけるためにはどうしたらよいか」を考えさせ、自然以外の場所にも視野を広げることで、より一層地域を愛する心を育てていきたい。この単元は、計画(Plan)・実行(Do)・振り返り(Check)・次へのつながり(Act)というPDCAの流れを通して、子どもたちの主体的な学びを育むことを目指す。

(4) ESDとの関連

・ 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性：地域にはさまざまな自然や場所があり、それぞれに価値があることに気づく。

相互性：自然と人の暮らしがつながっていることを理解する。

連携性：友達と協力して探検し、感じたことを共有することの大切さに気づく。

・ 本学習で育てたいESDの資質・能力

未来像を予測して計画を立てる力

高野口にある自然の魅力をどう伝えるかを考え、発表の構成や表現方法を工夫する。

コミュニケーションを行う力

探検で見つけた草花や好きな場所について意見を交流し、互いの発見を共有することで、地域の価値をより深く理解する。

進んで参加する態度

探検や発表の準備に自ら進んで取り組み、高野口のよさやその理由を考え、他者に伝えようとする。

・ 本学習で変容を促すESDの価値観

自然・生態系の保全を尊重する

高野口には自然がたくさんあり、好きになった自然を大切にしていきたい。

幸福感に敏感になる、幸福感を重視する

高野口には、思っていたよりも素敵な場所がたくさんある。

高野口の大好きなところを見つけた。

・ 達成が期待されるSDGs

3 すべての人に健康・福祉を

15 陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に取り組む態度
<p>①身近な自然や地域の草花・生き物に関心をもち、特徴や変化に気づいている。</p> <p>②四つ葉や地域の自然を観察し、寺や山などの場所にある草花の魅力を理解している。</p>	<p>①地域の自然や文化の多様な魅力を総合的に捉え、自分の好きな場所や理由を考えている。</p> <p>②感じたことや考えたことを言葉や絵で表現し、地域の方や友達と話し合うことで、町のよさを共有している。</p>	<p>①高野口の好きなところを見つけることを目的に、探検活動に意欲的に参加している。</p> <p>②自分が感じた地域のよさを、地域の人や友達にどう伝えたらよいかを考え、発表や表現の方法を工夫している。</p> <p>③地域の自然や文化を大切にしたいという気持ちをもち、学習に進んで取り組んでいる。</p>

5. 単元の指導計画（全24時間）

主な学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 高野口の好きなところはあるかを考え、今後の活動の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マツゲンが好きだよ。 ・きのこ公園が好き。 	<p>○これまでに生活科で行ってきた虫探しやあさがおの観察等、自然に関連した活動に重点をあて振り返りながら、高野口のよさを考えさせるようにする。</p>	イ① (思判表)
<p>2 四つ葉を探しに行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん見つかって嬉しい。 <p>3 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の場所にも四つ葉ないかな。 <p>4 探検の計画をたてる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きのこ公園に行きたいな。 <p>5 庚申山や大日寺に探検に行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庚申山って面白い形のどんぐりがあるよ。 ・大日寺ってバナナの木があったよ。 <p>6 活動の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庚申山ってなにもないと思ったけど、面白かった。 	<p>○四つ葉のクローバーの写真や実物を提示し、探す楽しさを高める。</p> <p>○「どんなところにありそう？」と問いかけ、予想させる。</p> <p>○「どんなところにあった？」「他の場所にもあるかな？」と問いかけ、次の活動への意欲を高める。</p> <p>○地図や写真を提示し、行きたい場所をイメージできるようにする。</p> <p>○観察の視点（草花・形・特徴）を示す。</p> <p>○「思っていたことと違った？」「どんな発見があった？」と問いかけ、カードにまとめる。</p>	ア① (知・技) ウ① (主体的) ア② (知・技)
<p>7 高野口の好きなところを考える。</p> <p>8 高野口の好きなところをまとめる。</p> <p>9 ESD 発表会で高野口の好きなと</p>	<p>○「なぜそこが好き？」と深める質問をし、カードに「好きな場所」「理由」を書かせる。</p> <p>○様々なまとめ方を提示し、児童にまとめ方を選択させる。</p>	ウ② (主体的)

<p>ころを発表する。</p> <p>10 活動の振り返りをする。</p>	<p>○友達と意見を共有することで、高野口の素敵な所はあると気づかせる。</p> <p>○単元を振り返り、「地域の好きなどころ」「しあわせ」について考えを深める。</p> <p>○次年度に繋げるために、自然以外の高野口のいいところについても考える。</p>	<p>イ① (思判表)</p> <p>イ② (思判表)</p> <p>ウ③ (主体的)</p>
---------------------------------------	--	---

〈成果〉

- ・実際に秋見つけに行き、五感を使って高野口のいいところを知る経験をしたことで、自分ごととして良いところを具体的にみつけることができていた。
- ・高野口の地域の人だけではなく、保護者の方にも協力してもらって秋見つけをしたことで、高野口の歴史や文化、またそれぞれの思い出を話しながら、秋を見つけることができた。
- ・発表する方法を自分たちで選択できるようにしたことで、させられる活動ではなく、自分からやってみようという気持ちを持ち、主体的に活動できていたように感じた。
- ・絵本や紙芝居、工作などの発表方法を通して、自分なりに好きなところを伝えようと工夫している姿が見られた。

〈課題〉

- ・活動の振り返りの時間で、付箋に友達の良かったところをまとめることが難しかったり、友達の良いところを評価できなかつたりした。そのため、友達の良いところを見つければ、視点を絞って書くことができるようにしていきたいと考えた。
- ・インフルエンザが流行していたこともあり、計画通りに秋見つけに行くことができず、時間が限られてしまった。次回は、活動に余裕がもてるよう計画していきたい。
- ・今回、協力してくださった地域の方と1年に1回しか交流する機会をつくることができなかった。来年度からは、1年に2回以上関わりをもち、地域の方との関わりがもてるようにしたい。

〈展望〉

- ・秋見つけでの発表会を参考にしながら、高野口全体の中から好きなどころを見つけ、2月にあるESD発表会では、友達や保護者、地域の方に自分の思いを共有してほしい。
- ・1年が終わる3月には、「～がすき。」というだけでなく、その理由についても詳しく伝えられる姿を目指したい。
- ・ESDの学習は1年生で終わりではなく、2年生になっても高野口を大切に、高野口をもっと知りたい！と思えるような工夫をしていきたい。
- ・最終の振り返りでは、秋見つけで行った振り返りの反省点を生かし、秋見つけで行った友達の良いところを付箋で書くのではなく、地域の方や保護者の方からのコメントを基に振り返りを行うことで自己評価ができようになりたい。
- ・ESD発表会で使う工作や絵本については、しっかりと時間を確保し、子ども達がゆとりをもって取り組めるようにしたい。